

市立

1994年（平成6年）8月1日発行

市川自然博物館

8・9月号

（通巻第33号）

だより

やさしい生態学 3

『国府台・真間山の林』



▲空から見た国府台・真間山の林

『国府台・真間山の林』

～ 都市に残る照葉樹林 ～

東京から総武線や京成線で市川に向かってくと、江戸川を渡るあたりから国府台、真間山の林の姿が真先に眼に飛び込んできます。国府台、真間山の林は、都市化した市川のなかでも、照葉樹を中心とした特筆すべき林です。市街地に残る照葉樹を中心とした林の生態学的な意義について、紹介しましょう。

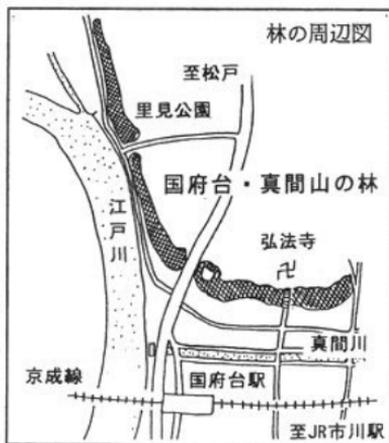
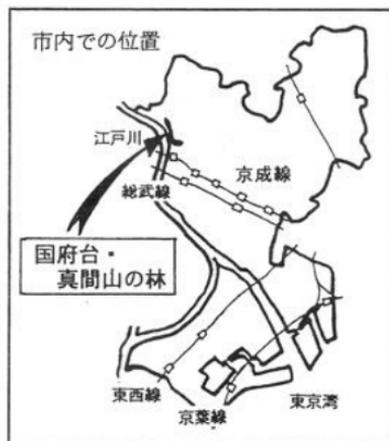
台地をふちどる斜面林

国府台、真間山は東葛台地の西の端にあたり、台地上は広く平坦ですが、台地が低地に臨むところは急な斜面になっていて、一部では崖をなしています。「真間」とは、急崖を意味する地名ともいわれていて、この急な斜面は、氷期の海面低下により、川によって深く削り取られたもので、およそ20mの比高差があります。

国府台、真間山の林は、この台地の縁を取り巻くようにして、里見公園のあたりから江戸川に沿って南下し、東へ折れて真間山に至る延長約2kmの斜面林です。

低地側から国府台、真間山の斜面林を見上げると、鬱蒼とした奥行き深い林を思わせますが、実際には急な斜面にはりつくようにして樹木が生える、奥行き浅い細長い林であることが特徴です。

林の様子は一様ではなく、真間山のあたりは一年中緑濃い、照葉樹（常緑広葉樹）を中心とした林が残り、里見公園の周辺では、クロマツ林の名残がある雑木林になっています。



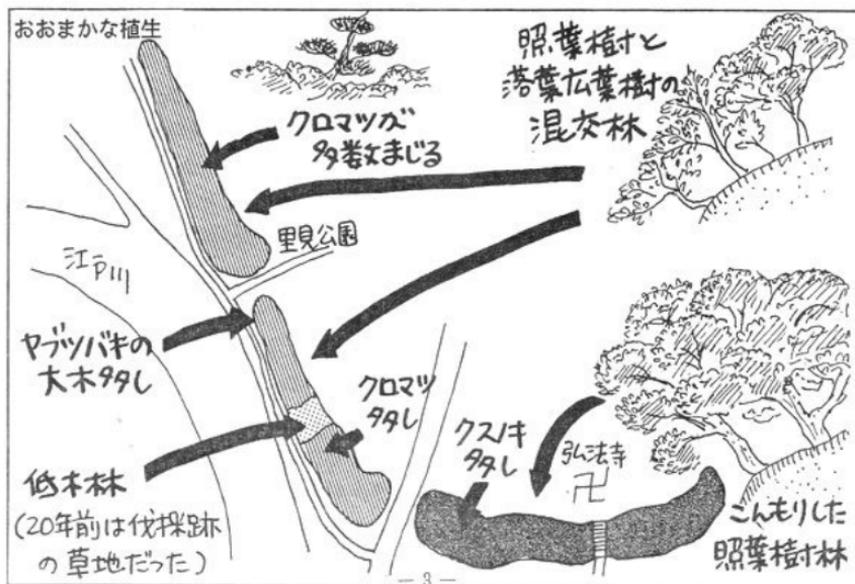
照葉樹の林

真間山弘法寺の高い石段をのぼりきった東側の斜面は、大きなスダジイが生えならぶ林になっています。スダジイは、暖温帯の海岸に近い地方に多い照葉樹の代表種です。真間山のように直径50～60cmの大木のスダジイの林となるためには、少なくとも数百年の歳月が必要であり、この林は、市川あたりで人手が加わらずに自然のままに放置されたときに至る、究極の林の姿（極相林）にもっとも近いと考えられます。

石段の西側の斜面には、タブノキが多くなり、スダジイとタブノキのまじった林となっています。さらに西側の斜面には、クスノキの大木からなる林がひろがります。タブノキもクスノキも暖温帯の沿岸部の代表的な照葉樹のひとつです。タブノキは江戸川に面した里見公園下の斜面林でも主要な樹種になっていて、極相林に近い林の状

態をかたちづくっています。

スダジイやタブノキなどの照葉樹の極相林は高木、亜高木、低木、草本といった高さ別の各層がはっきりと分かれていて、林内には他の樹種の芽生えや幼木が少なく、常に種類変化がおこっているマツ林や雑木林に比べると、種類変化の少ない安定した状態が長く続くようになっているのが特徴です。林内は樹冠を被ったスダジイやタブノキといった高木層の葉によって光が遮られて暗く、鬱蒼としています。照葉樹の林は、こうした雰囲気から、古来より人々に畏怖の念をもって見守られ、特に信仰との結びつきが強く、神々の宿る森として大切にされてきました。国府台、真間山の照葉樹の林も、寺社林として大切にされ、都市化が進むなかで現代に伝えられてきた貴重な自然といえるでしょう。



クロマツ林の名残り

江戸川に面した里見公園の北側の斜面には、古い写真などを見ると、もともとクロマツの立派な林がひろがっていました。

クロマツは海沿いに多い樹種で、国府台、真間山の台地上ばかりでなく、低地の市川や八幡などの市街地の市川砂洲上にも大木が数多く残っていて、「市の木」にも指定されています。

現在では、クロマツの純林はすでに姿をかえていて、斜面林を江戸川の堤防から見

ると、コナラを中心とした落葉樹林の上にクロマツが頭を突き出したような姿になっています。さらにコナラの下層には、スダジイやシロダモなどの照葉樹が成長してきています。生態学の教科書に従えば、クロマツ林からコナラなどの落葉広葉樹林へ移りかわってきており、さらに、やがては照葉樹が天下をとって、自然に真間山の林のようになると考えられます。しかし、そうした変化の結果が見られるのは、まだまだ先のことでしょう。

国府台・真間山の林への交通：

京成線 国府台駅から徒歩10分、 JR総武線 市川駅から徒歩20分

都市にひろがる緑の道

国府台、真間山の林は、都市に大樹がまとまって残る数少ない照葉樹の林であり、「市川らしさ」を表す景観として、また学術的にも大変貴重な林です。

さらに、長年にわたり野鳥の種類や数を調査した結果を分析してみると、江戸川にそって長く広がるこの林は、春、秋の渡り鳥が通過する際の貴重な存在になっていることが分かってきました。

様々な小鳥類が観察されていますが、特に、林で生活するメボソムシクイやエゾムシクイなどのムシクイ類、ムギマキやエゾビタキなどのヒタキ類、ウソやコイカルなどのアトリ類をはじめ、カッコウ類なども渡りの途中に一時的に休息し、体力を回復する場所として数多く利用していることが観察されています。

また、夏鳥であるアオバズクの繁殖場所にもなっており、さらに今年は真間山のスダジイにできた樹洞で、フクロウが子育て

に成功しています。

国府台、真間山の林は、タヌキの生息にもどうやら貴重な役割を果たしているようです。この周辺では、数年前からタヌキの目撃が増えてきており、昨年は千葉商科大学の構内で、若いタヌキが捕獲されたり、今年は真間5丁目では生後間もない子タヌキが発見されたりしています。また、江戸川の河川敷周辺でも交通事故にあったタヌキが見つかっています。2 kmにも続くこの林は、例えていうなら市街地の中の「緑の道」を形作っています。タヌキはどうやらこの「緑の道」を利用しているようです。

市街地では、公園や庭園など、島状に林や緑地が残されたり形作られることはあっても、周辺を人工物に取り囲まれているとタヌキのような野生動物は生活場所に利用できません。国府台、真間山の林は、市街地に暮らす野生動物にとっても、大変貴重な環境であるといえるでしょう。



街かど自然探訪

おじゃまします!

国分・坂とアリジゴク

北部の台地と南部の低地の境界に位置する国分には、台地の縁にあたる部分に斜面や崖が多くあります。道にも坂道が多く、そのうちの何本かは斜面林をくぐりぬける小道になっています。

そこでは、大きな木の根元がむきだしになり、それが屋根のように覆いかぶさる下に、アリジゴク（ウスバカゲロウの幼虫）の巣がいくつも見られます。乾いた土をすり鉢状にした巣で、その底に幼虫がひそむのです。林をぬける坂道は、アリジゴク探しの好ポイントです。



23 ~ 23 ~ 23 ~ 23 ~ 23 ~ 23 ~ 23 ~ 23 ~ 23 ~ 23 ~ 23

行徳野鳥観察舎

ツバメのねぐら

午前3時半。わが家のちょうど前あたりでツバメの群れがしきりに鳴き交わしはじめる。丸浜川のアシ原かUFO島か正確な位置はわからないが、相当な数がいるようだ。4時ごろになるともう飛び立っらしく、まだ暗い上空から声が聞こえてくる。日中は丸浜川の水面や芝生すれすれをかすめて飛ぶ小気味よい姿を楽しんでいるが、夕方になるとがぜん数が増え、上空を何十羽もの群れが飛ぶこともある。午後7時、あたりがかなり暗くなるころになると、またわが家の前のどこかにツバメが集まってくるのが、鳴き声でわかる。

だより



文と絵・運尾純子

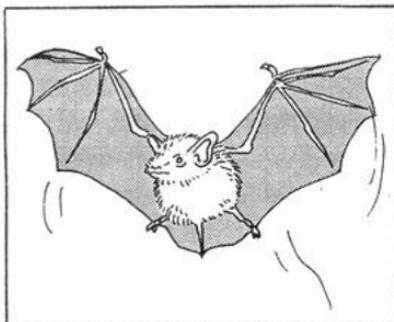
ツバメのねぐらがこれほど間近にあるというのに、いまだにねぐら入り、飛び立ちとも確かめていない。我ながらなんと怠慢！（観察舎☎0473(97)9046）

いちかわの 野生生物

アブラコウモリ (Pipistrellus abramus)

アブラコウモリは、市内で普通に見られるコウモリで、日が沈む頃、市街地の公園や空き地、田畑のような開けた場所、遊水池、川などの上空を飛んでいます。

アブラコウモリは、木造住宅の屋根裏や雨戸の戸袋、瓦下などの狭い割れ目などにねぐらを集団でとることから、別名イエコウモリとも呼ばれていて、人間の暮らす場所に適応したコウモリです。近頃はコンク



リート建築やプレハブ住宅の換気孔、橋や高架道の梁のすき間なども利用するといわれていますが、市川市内でのねぐらについては、まだほとんど分かっていません。

夜間に飛び回る蛾や甲虫、ウンカなどの昆虫を主な餌としており、口から超音波を発して、反射してくるエコーを聞き分けて、飛んでいる昆虫の位置をすばやく探知して、空中で捕らえます。一日に食べる昆虫の量は、体重（7グラム前後）の3分の1に相当するといわれ、害虫の駆除などにもひと役かっているようです。

やってみよう! みてみよう!

ランクA

目をまわしてとる。

ランクB

か〜彼せ〜

メスのトボをおヒリにしとる
(オスがメスに
くついて
(3ヨ!))

ランクC (難度が高い)

おヤシマなび

小石を
をひもで結
んでトボ
めかけ
投げとる。

(トボが小石に
飛びつくと
ひもがからんで
おちる)

虫もあつち!
〜トボ捕〜
の巻

わたしの
観察 ノート No.15

みなさまの
情報を

お待ちに
ます。



◆大町自然観察園より

- ・コヒロハハナヤスリ (5/24) とアオハダ (5/17) が採集されました。

鎗田安之、宮橋美弥子 (自然博物館)

※いずれも、市内新記録の植物で、特にシダのハナヤスリ類が見つかったのは、ひさしぶりです。

- ・ホトトギスの声を聞きました (5/23)

阿部則雄さん (船橋市在住)

- ・アカシジミ (5/30)、ミドリシジミ (6/6) が飛んでいました

金子謙一 (自然博物館)

- ・カワセミの幼鳥を見ました (6/10)

須藤 治 (自然博物館)

- ・イソシギが4羽飛来しました (7/4)

石井信義さん (菅野在住)

◆北方遊水池より

- ・つがいらしいタマシギ (6/5)

- ・チョウゲンボウが飛来しました (6/4)

以上 石井信義さん

◆下貝塚より

- ・イタチが、道路を横切りました (6/1)

宗像洋文さん (八幡在住)

◆鬼高より

- ・アチハナ (帰化植物) の花 (6/5)

安藤ゆきのさん (新田在住)

※咲いていたコルトン・ブラザ付

近は、かつての毛織工場跡で、

帰化植物が多かったところ。

◆真間山より

- ・巣立ったばかりのフクロウの幼鳥が確認されました (6/11~6/29)

根本貴久さん (菅野在住)

※根本さんによると、白い羽毛におおわれた幼鳥1羽と、それを見守る成長2羽が、1か月ほどの間に観察できたそうです。

※市内でのフクロウの繁殖は、今年と一昨年、自然観察園で記録されています。しかし、これは共に巣箱によるものであり、自然の樹洞によると思われる繁殖 (今回、巣は特定されなかった) となると、近年なかったことです。

◆里見公園より

- ・アオバズクが今年も飛来しました (5/6~5/10)

秋元久枝さん (国府台在住)

※秋元さんによると、例年、夏までいるのに、今年は、すぐ、いなくなったそうです。子育てにも至らなかったと思われます。

◆江戸川放水路より

- ・軽い青潮が発生したものの、大した被害は出ませんでした (6/7)

- ・今年生まれのトビハゼの幼魚を確認しました (7/22)

以上 金子謙一



8・9月の行事案内



※第36回名前をしらべる会

夏休みにあなたがつけた標本で名前のわからないものがあつたら、直接会場に持ってきて下さい。申込みは不要で、どなたでも参加できます。専門の先生と一緒に名前をしらべましょう。

月日	会場	相談内容	時間
8月20日(土)	市民会館	昆虫・貝・植物	午前10時～午後4時
8月21日(日)	行徳公民館	植物・岩石	(正午～午後1時は 昼休み)
8月23日(火)			

☆ 次の3つの行事については、往復はがきに参加したい行事名・参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、自然博物館までお申込みください。

※自然観察会

○どなたでも参加できます。申込み先着20名。

月日	内容	場所	時間	受付開始日
9月4日(日)	トンボの観察	自然観察園	午前9時半～11時半	8月15日～

※昆虫の声を聴こう

○どなたでも参加できます。申込み先着30名。

	月日	場所	時間	受付開始日
(1)	9月17日(土)	自然観察園	午後6時～8時	9月1日～
(2)	10月1日(土)			9月15日～

※ただし両日の参加はできませんので、(1)か(2)のいずれかの日程をお選び下さい。

※やってみよう！ みてみよう！

○対象 小学生と保護者

○申込み先着10組

月日	内容	場所	時間	受付開始日
9月10日(土)	虫を釣ろう	自然博物館	午後1時～4時	8月15日～
10月8日(土)	草木染をしよう	周辺		9月15日～

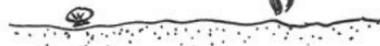
※「草木染をしよう」は材料費が必要です。

企画展

「市川のさかな」

9月25日(土)

まで開催中!!



市立市川自然博物館だより

第6巻 4号 (通巻第33号)

発行日/平成6年8月1日 (偶数月発行)

編集・発行/ 市立市川自然博物館

〒272 千葉県市川市大町 284番地

☎ 0473(39)0477